



山口 建(やまぐち・けん) 長
1974年慶応義塾大学医学部卒業。99年国立がんセンター研究所副所長就任。同年宮内庁御用掛就任(併任)。2000年より世界がん研究機構科学評価委員会委員。01年より財団法人日本対がん協会評議員を務める。02年より現職。00年には高松宮妃癌研究基金学術賞を受賞するなど、国内外において活躍する。03年より厚生労働省「地域がん診療拠点病院の運営に関する検討会」及び「がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」委員。研究領域は、乳がん治療、遺伝子診断、がんの社会学。

男2人に1人、女3人に1人

わが国では急速に社会の高齢化が進み、それに伴い、がんの患者さんも増加しています。現状、男性の二人に一人、女性の三人に一人が、一生のどこかでがんを診断される時代となっています。

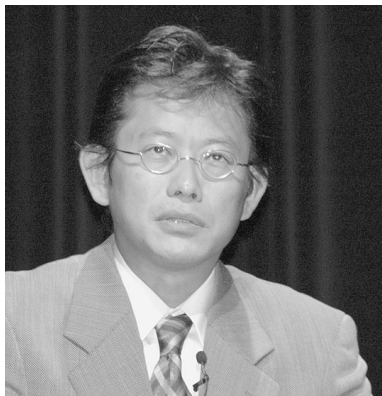
十年ほど前の統計では、がんにかかった人の四割が治り、六割が残念ながらかかったがんで命を落とすという治療の状況でした。現在では、五分五分まできていると思います。

がんの診療過程

がんを上手に治す第一歩は、がん診療の過程を把握し、心構えをすることです。

がん検診をどこで受けるか

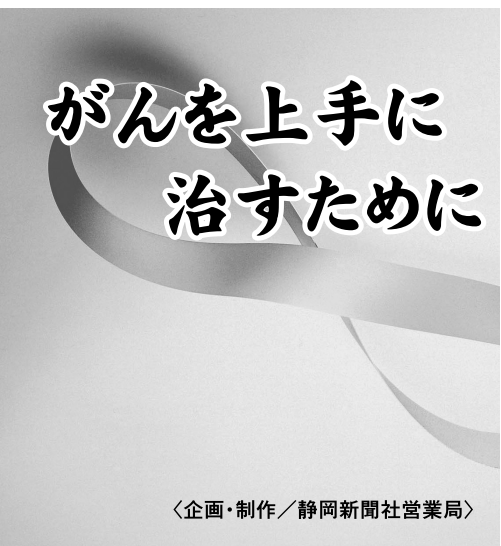
がん(癌)検診にはお住まいのところで実施される集団検診、職場の検診、自由に選ぶ「人間ドック」検診があります。お住まいのところからお知らせがあるがん検診は、誰でも受けられるようになっていきます。何も症状がない人に、多くの人が受けられて、身体に負担が少なく、かかる費用も少なく、助かる人になるべく多く、これがこのがん検診の特徴です。症状が既にある人は病気がある疑いがあり病気を狙い撃ちする精密検査が必要です。お医者さんにかかって下さい。この症状の内容については後で述べます。



宮木裕司(みやぎ・ゆうじ) 検診センター医長
1991年岡山大学医学部医学科卒業、医師免許取得。同年同大医学部産科婦人科学教室に入局。同大医学部附属病院を皮切りに、同大関連病院に勤務し、臨床医として現場医療に従事する。2005年より現職。産婦人科専門医。医学博士。専門領域は、数理科学的解析による生命現象の分析。

がんを上手に治すために

総長 山口 建氏



がんを上手に治すために

〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

シ(病期)分類、つまり病気の進み具合が告知され、ステージ分類により経験的に治る確率がほぼ想定されるので、患者さんにとっては大事な情報となります。その後、医師は治療方針を決め、患者さんに説明し、患者さんで、どのような治療が実施されるか、そこでどのような治療が開始されます。この過程がインフォームド・コンセントです。

筋を知ると、心が落ちつき、ノットです。もし説明内容に納得がいかなかった場合は、セカンド・オピニオンを申し出ることが出来ます。

まずがんを診断された時点で、①がんの種類、②ステージ、治療終了後には、病理組織

検査の結果など踏まえ、より確度の高い治療の可能性が予測されます。ただし、あくまでも平均して何割治るといって情報であり、その患者さん個人の将来を決定づけるものではありません。そこで、退院後、経過観察に入ります。一般的な「五年生存率」と言われるように、手術後五年間様子を見て、再発がなければ、その時点で治療したと判断します。

がんの種類によっては、より長期間の観察が必要なものもあります。すべてのがんをにいろいろな告知がなされま

合わせて、治るもの、治らず死に至るものが、おおよそ半々と申し上げましたが、早期に見つかり、適切に治療された場合には、治る確率は遙かに高まります。

がん治療についての最新情報を多角的に学ぶ 県立静岡がんセンター公開講座「がんを上手に治すために」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、同センター共催、スルガ銀行特別協賛)の第一回講座が、先月二十四日、三島市の三島市民文化会館で開かれました。同センター総長の山口建氏が「がんを上手に治すために」、検診センター医長の宮木裕司氏が「がん検診のねらい」をテーマに講演しました。その概要を紹介いたします。

子宮がん六・五%、乳がん二・八%で、精密検査が必要となった人のうち百人あたり数人ががんが見つかりました。そうすると、実際にはがん検診を受けた人の千人あたり数人ががんが発見されたこととなります。

どのくらい見つかるか

さて、このがん検診の内容は政府によって有効性が検証済みのもので安心して受けることができます。このがん検診の対象となるがんは、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がん、胃がん、大腸がん、肺がん検

がん検診のねらい

がん検診を受ける意義

平成十五年の厚生労働省の報告から、胃がん一・一五%、肺がん二・九%、大腸がん七・三%、子宮がん一・一%、乳がん五・一%となり百人あたり数人に精密検査が必要と判断されました。

そして精密検査を受けた結果、がんが発見された人の割合も出ています。胃がん一・六%、肺がん一・九%、大腸がん三・〇%、

がんが再発すると、なかに伝える病状や説明も十分理解できません。最初は「自分ががんにかかるはずがない、何かの間違った」と否定し、しばらくするとその事実を受け入れるようになりますが、その結果、恐怖、混乱、怒り、そして不安が増す状態が一、二週間続きます。その後、何とかそういう状態を克服するのが一般的な流れです。もうたえることなく、医師や医療関係者、家族の力を借りて冷静を取り戻し、自分の生き方に適した治療法を選択してほしいと思います。

胃がんについて、検診で発見された人は八九%、症状が出て病院で発見された人は五〇%、同様に肺がんは五三%と二〇%、乳がんは九五%と八八%、子宮がんは九七%と

がんが再発すると、なかに伝える病状や説明も十分理解できません。最初は「自分ががんにかかるはずがない、何かの間違った」と否定し、しばらくするとその事実を受け入れるようになりますが、その結果、恐怖、混乱、怒り、そして不安が増す状態が一、二週間続きます。その後、何とかそういう状態を克服するのが一般的な流れです。もうたえることなく、医師や医療関係者、家族の力を借りて冷静を取り戻し、自分の生き方に適した治療法を選択してほしいと思います。

さまざまながん告知への対処法

がんの種類によっては、より長期間の観察が必要なものもあります。すべてのがんをにいろいろな告知がなされま

最初の段階での病名と病期より重い告知がなされることがあります。

それは、治療後の経過観察の過程で再発してしまったとき、さらに、再発後の延命治療中に、積極的な治療が続けられなくなる局面を迎えたと

がんの再発と判断された場合、がんの患者さんや家族のショック

「前向き」に生きる

すべての診療過程を通じて、患者さんや家族へのアドバイスは「前向きに考え、生きること」。

現在の悪い状況に自分自身が積極的に働きかけ、少しでもよい状況に変えていく努力の

食道がん 食べ物や飲み込むときにつかえたりしみたりする。

肺がん 咳(せき)が続く。

大腸がん 便に血や粘液(どろっとした液)が混じる。

腎臓がん、膀胱がん 尿に血が混じる。

前立腺がん 尿の出が悪くなる。

健康な時間をなるべく長くするには

最後に、健康に過ごせる時をなるべく長くする方法を挙げます。

一、年に一度は定期的に健康診断やがん検診を受け、治療や精密検査が必要とされたら必ず受けること。

二、何か症状が出たら受診すること。

この方法が、病気をなるべく遠ざけるのに役立ちます。

健康な時間をなるべく長くするには

最後に、健康に過ごせる時をなるべく長くする方法を挙げます。

一、年に一度は定期的に健康診断やがん検診を受け、治療や精密検査が必要とされたら必ず受けること。

検診センター医長 宮木裕司氏

は、お医者さんから、異常がある、病気ではないかと言われたら、調子が悪い、変わったことなど、自分の身体や心

このことからがん検診で発見できるがんは、治療で生存の可能性が高くなる、早い段階にあると考えられます。

がん検診を受け精密検査が必要と判断されたら、お医者さんにかかって下さい。そんなことを聞くと、もしか

胃がんについて、検診で発見された人は八九%、症状が出て病院で発見された人は五〇%、同様に肺がんは五三%と二〇%、乳がんは九五%と八八%、子宮がんは九七%と

大変重要でしかも大いに困惑することですが、がんを見つけたことには限界があるた

皮膚がん 治りにくい潰瘍。いぼが急に大きくなる。ほくろのがん 大きくなる。新しいものができる。足の裏のほくろにできやすい。